

# 羽保屋山の大男

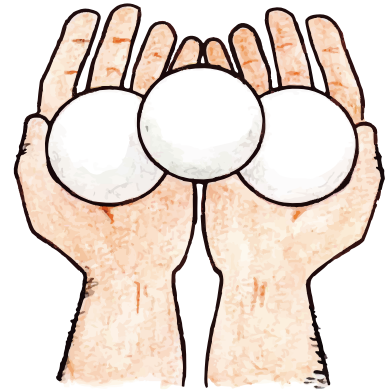
はほやさんのおおとこ

むかし、釈迦内村に住む男が長木村の羽保屋山へ、マダの木の皮を剥ぎに出かけた。

仕事は順調に進み、男は帰ることにした。

しかし、帰る途中の道ばたに大きな鏡餅が3つも落ちていた。

男はそれを拾った。そして息子の太郎に食べさせようと思い、足を速めた。



一ところが、男は急に激しい空腹を覚えた。

「これは太郎に食わせる餅だから」と何度も自分に言い聞かせたが、いよいよ我慢しきれなくなって餅の1つにかじりついた。あまりのおいしさに、思わず3つの餅をぜんぶ食べてしまうと、男の体はぐんぐん大きくなってしまった。



ようやく家に着いたが、男は家の中に入れないほど大きくなっていった。

父の帰りを待っていた太郎が外に飛び出すと父は山のような大男に変わっており、あまりの驚きにわんわん泣き出した。事情を説明し、「オレはもう山へ行って暮らすから、お前は立派な大人になってくれ」と泣きながら山の方に歩いて行った。

この話は村中に広がり、村人たちは気味悪がって太郎の家に近づかなかった。

幼い太郎は暗い家の中で、毎日父の名を叫びながら泣き続けた。



それからまもなく、長木村のあちこちで每晚農作物が荒らされていた。そこには大きな足あとがいくつも残っていた。

「このままでは農作物が全滅してしまう」と焦った村人たちは、何日も相談しあった。

終いには、羽保屋山に祠を建てて大男の悲しみを慰めることにした。

これが、今の羽保屋大神である。

それからは、農作物が荒らされることもなく、太郎も村人からの助けで立派に成人したという。



羽保屋山の神社では、羽保屋大神祭が6月30日(旧5月28日)に毎年行われている。